

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-154	13-320	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Lifestyle intervention in general practice for physical activity, smoking, alcohol consumption and diet in elderly: a randomized controlled trial. 高齢者に対する身体活動、喫煙、アルコール消費と食事のための一般医療への生活様式介入：無作為対照臨床試験。		
<b>執筆者</b>		
Vrdoljak D <sup>1</sup> , Marković BB, Puljak L, Lalić DI, Kranjčević K, Vučak J.		
<b>掲載誌</b>		
Arch Gerontol Geriatr. 2014 Jan-Feb;58(1):160-9		
<b>キーワード</b>		
生活様式、高齢者、介入試験、		
<b>要 旨</b>		
<p>本研究の目的は、一般開業医（GP）65歳以上の患者における通常ケアと、身体活動、喫煙、アルコール消費と食事を含む生活様式変化に関してプログラムされたおよび強化された介入の効果を比較することである。</p> <p>この多施設無作為対照臨床試験では、738例の65才以上の患者が強化介入群（N=371）か生活様式変化のための一般医の通常ケア群（N=367）に無作為に割付けられ、その後の18ヵ月の追跡調査を受けた。主なアウトカムは、身体活動、喫煙、アルコール消費と食事であった。本研究は、2008年5月と2010年5月の間にCroatiaの59施設の一般診療医で実施された。患者の平均年齢は、72.3 +/- 5.2歳であった。介入群では、コントロール群に比較して、有意な食事の修正が18ヵ月の追跡調査の後成し遂げられた。</p> <p>より多くの患者は地中海の食事をしっかりと続け、より多くのヘルシーフードを消費した。介入の後、身体活動、喫煙とアルコール消費または食事では群による有意差がなかった。</p> <p>結論として、18ヵ月の強化GPの介入は、生活様式習慣に対して部分的には効果的であった。GP介入は高齢の住民の食習慣を変えることができた。そして、高齢者は生活様式習慣変化に関して非常に抵抗性であることから、期待が持てる。</p>		